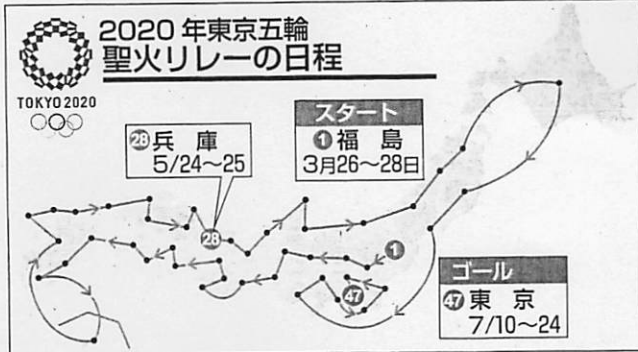


# 聖火リレー 兵庫五国で

## 東京五輪、県全域巡るルート案

全国を巡る2020年東京五輪の聖火リレーで、兵庫県内のルートを検討してきた県の実行委員会が、旧五国（摂津、播磨、但馬、丹波、淡路）を全て通る案を大会組織委員会に提出したことが19日分かった。日程は5月24、25日の2日間と限られるが、多様性に富む兵庫の魅力を広く発信する狙いがある。正式なルートは各都道府県のアを基に大会組織委が決定し、今年夏に発表される。（井上 駿）



聖火は古代五輪発祥のギリシヤで20年3月12日（現地時間）に採火され、日本国内のリレーは同26日にスタート。福島を皮切りに46道府県（各2〜3日間）を巡った後、7月10日に東京に入る。兵庫は28番目で、鳥取から受け取り、京都につなぐ。兵庫県の実行委はルート検討に先立ち、県内全41市町に意向調査を実施。ルート入りを希望した市町を軸に、集客性や安全性、アピールできる地域の特徴などを考慮して案をまとめ、昨年12月26日に大会組織委に提出した。「組織委が変更を加える可能性がある」として、ルート案の内容は正式決定まで公表しない。

## 来年5月24、25日 最大36キロ、180人つなぐ

大会組織委は各都道府県に、走者1人当たりの距離は約200キロ、所要時間は2〜3分、1日のリレーは8時間程度▽走者は1日80〜90人などの目安を提示。これに照らせば、兵庫のランナーは160〜180人で、リレー区間は最大36キロ程度になるとみられる。関係者によると、2日間で旧五国の各地域を巡るため、ランナーによるリレー区間以外は車で聖火を運搬するなど、効率的に移動する方策も案に盛り込んだという。県実行委は「兵庫の魅力を全世界に発信し、多くの人が観覧できるルート案を慎重に選定した」としている。ランナーの募集は正式ルート決定後に始まる予定。



1964年東京五輪の聖火リレー。兵庫県南部を通った際は雨に見舞われた。姫路城が見下ろす大手前通りの様子（左）と、神戸・舞子公園付近を走るランナーら（右）ともに9月24日

## 1964年 兵庫南部は雨の聖火リレー



3組女子 語学系志望  
神戸新聞 1月20日分